

中国における森林認証の実態と今後の方向性

—浙江省を事例として—

○梁小瓊・土屋俊幸(東京農工大院農)

要旨：森林認証制度は欧米を中心として普及が進んできたが、近年他地域でも普及がみられるようになってきた。中国でも、森林認証が持続可能な森林経営の実現に有効的な手段であることが認識されている。しかし現時点では、認証を取得した森林面積は総森林面積の0.5%にも達しない状態である。また、最近独自のCFCC(中国森林管理委員会)という森林認証制度が誕生したが、認証を取得した団体はまだない。今後、中国で森林認証を広めていく戦略を考察するため、浙江省において聞き取り調査を実施し、認証を取得した森林経営企業の現状、認証取得の動機、これからの予定などを明らかにした。調査の結果から、中国の森林認証の発展は海外市場に依存していることが明らかとなった。そして、森林認証を国内において普及するためには、認証を推進していく具体的政策(政府調達制度など)が必要であり、また、独自の森林認証制度には、国際相互承認が重要であると思われる。

キーワード：森林認証、浙江省、FSC、CFCC

I はじめに

森林認証制度はもともと熱帯の森林減少に対処するために考えだされた制度であるにもかかわらず、実際には熱帯地域で普及が進んでいない現状がある(1)。2010年5月のデータでは、アジアのFSC森林認証面積は342万2,899haで、世界の全認証面積の2.65%を占めている。(2)

中国では、1998年頃にWWFなどの影響を受けて、森林認証が持続可能な森林経営の実現に有効な手段であることが認識された。政府も森林認証を普及していくと表明し、森林認証の普及が進んだ。

現時点で、アジアにおいて、中国の森林管理認証面積は第一位である(3)。しかし中国の総森林面積の0.5%にも達しない状態であり(2)、まだ増加の余地が多くあるといえる。

中国では最近独自のCFCC(中国森林管理委員会)という森林認証制度が誕生した。しかし、認証を取得した団体はまだない。今後、世界的に森林認証制度の普及が進み、中国でもさらに森林認証が拡大すると予想される、そのような国際的な流れのなかでCFCCは海外の認証制度に対して

どのようなスタンスをとっていくのかが注目される。

中国において森林認証の国内での発展が阻害されている要因として、中国の各専門家は以下の点をあげている：

- ・ 森林経営者が森林認証に対して認識不足(2010年7月の中国林業科学研究院林業科術信息研究所校建民氏への聞き取り調査による)。
- ・ 国有森林経営企業以外の多くの企業は森林経営計画を策定しておらず、認証基準に合わない(同上)。
- ・ 認証機関は全て海外企業であり、中国の森林や文化に対する理解ができていないし、コストもかかる(2010年7月の浙江農林大学教授曾燕如氏への聞き取り調査による)。
- ・ 中国の森林経営は、社会的な持続性の面で問題があり、認証基準にあわない(同上)。
- ・ 中国政府はFSCとPEFCの認証機関を規制する意図はないものの、中国の法律に則って、政府から認可を取得しない限り、合法的な認証組織として認められない(2010年8月の中国林業科学研究院教授陸文明氏への聞き取り調査による)。

LIANG Xiaoqiong and TSUCHIYA Toshiyuki (Grad.Sch.of Agric,Tokyo Univ. of Agric.and Tehnol, 3-5-8 Saiwacho, Fuchu, Tokyo 183-8509)

Current Situation and Future Direction of Forest Certification in China: --- A Case Study in Zhejiang Province

しかし、こうした見解は、現場の森林認証取得企業の実態調査にもとづいたものとは必ずしも言えず、十分な調査が求められている。そこで、本研究では、多くの森林認証取得企業が立地する浙江省において、認証の発展を阻害する要因を明らかにした上で、中国において今後森林認証を広める戦略について考察することを目的とする。

II 調査地の選定及び調査方法

1. 調査地選定

浙江省は中国中南部に位置し、東シナ海に面している。森林率は58.31%である。林産物生産総額は国内で一位、林産物輸出額も上位に位置している。中国最初の森林管理認証は浙江省の企業が取得した。また、森林管理認証取得件数からみると、2010年5月以降、浙江省が国内で一番多い(3)。これらの点を踏まえ、本研究の調査地として浙江省を選定した。調査期間は、2010年7月、9～10月である。

2. 調査方法

認証取得企業の基本情報、認証に対する意識、また、具体的な認証の発展を阻害する要因を把握するため、浙江省においてFSC森林認証を取得した森林経営企業、計5社に聞き取り調査を行った。

III 調査企業の概要

5社のうち3社(A、B、C)は、森林経営専業であり、2社(D、E)は森林経営と木材加工業を兼業している、5社とも森林管理認証とCoC認証も取得している。以下では、前者を「森林経営企業」、後者を「木材加工企業」と略す。

1. 森林経営企業

1) A 国有林場

森林経営のみを行っており、従業員数は28人である。総森林面積は2,000haであり、うち天然林は35%を占めている。2005年に873haの森林管理認証を取得した。商品(丸太)の市場は主には浙江省内である。

2) B 組合

認証取得を目的として、個人や零細企業が集まった組合である。従業員数は130人、森林経営面積は7万6,231haである。2010年に森林管理認証を取得した。商品(丸太)の主な市場は浙江省内である。

3) C 国有企業

従業員数は220人、森林経営面積は2万8,668haであり、すべて天然林が占めている。2010年、全面積で森林管理認証を取得した。商品(丸太)の市場は中国国内である。

2. 木材加工企業

1) D 私有企業(竹材製品)

森林経営も行っているが、木材加工が主業である。従業員数は100人、森林経営面積は1106haである。全て天然林で、2008年に全面積森林管理認証を取得した。商品(竹材加工品)の市場は欧米が主である。

2) E 私有企業(木材加工品など)

森林経営も行っているが、木材加工が主業である。従業員数は100人で、森林経営面積は3598haである。全て天然林で、2007年に全面積森林管理認証を取得した。商品(木材加工品)の市場は欧米が主である。

IV 森林取得の実態

1. 森林経営企業の認証取得経緯

森林経営企業の認証取得経緯は、表-1で示すように、C企業だけが森林経営の向上を動機として認証を取得した。一方、A、B企業は、木材加工企業の要請を受けて認証を取得している。木材加工企業による要請の理由は、海外販売先からの要請である。つまり、海外の市場が間接的に森林経営企業に認証取得を促していると言える。

また、認証取得後に期待した効果としては、経済利益の向上がもっとも強かった。

補助金については、A企業は森林認証を取得するための補助は受領していないが、森林認証を取得した後に、他の企業の森林認証取得支援という目的で20万元を浙江省林業庁から得た。その内容は、森林認証取得の経緯に関する説明会・見学会の開催や技術指導である。また、B、C企業は補助金を取得していない。

審査の際に、A企業は安全施設、水土流失のモニタリング測定が不足と指摘された。B企業は生物多様性が問題とされた。C企業では生物多様性とゴミ処理が問題だった。

2. 木材加工企業の認証取得経緯

木材加工企業の認証取得経緯を表-2で示す。木材加工企業の認証動機は、海外販売先からの要請であり、海外市場が木材加工企業に直接影響を

与えている。

期待した効果としては、D企業とF企業が両方とも経済利益の向上をあげた。また、D企業は、生産している商品の知名度アップも期待していた。

補助金としては、D企業は中小企業支援補助金として認証費用の50%を政府から受け取った。E企業は補助金を受け取っていない。

審査の際の指摘事項として、D企業が安全施設、ゴミ処理、E企業が水資源の保護、事故の処理手順がないことを指摘されている。

3. 森林認証に対する評価

表—3で示すように、認証取得企業はほとんど認証費用を負担とは感じておらず、認証基準も厳しいとは考えていない。また、取得時に期待した効果は、ほぼ実現しており、全ての企業が認証を継続する意向を持っている。このように、森林認証に対する総合評価は非常に高いとわかった。

4. 国内独自の認証体系への認識

表—4で示すように、独自の国内認証体系に関しての意見を聞くと、国際相互承認が一番重要な事項と答えた。それ以外では、消費者への認知度アップ、消費者への認知度アップも重要と答えている。

V まとめ

本調査から、認証の発展を阻害する要因として、以下の点が挙げられる：

- ・ 中央政府に、森林認証を普及する意志はあるが、具体的施策（政府機関による調達など）がない。
- ・ 国内市場の未成熟。
- ・ 中国の森林認証発展の海外市場依存。

林産物の貿易をみると、2009年には中国の林産物総生産額は2,370億ドルである、そのうち14.6%が輸出されている（2010年10月の中国林科院教授陸文明氏への聞き取り調査による）。輸出先国の環境意識の高低によって、認証製品を購入する意識が異っており、欧米では、消費者が環境に負荷の少ない認証製品を選択的に購入しようという動きが盛んである。日本を含むその他地域では、認証製品への要求が比較的低い。つまり、輸出の内、欧米向けの部分だけが認証を要求されていると言える、海外市場だけに頼っていると、

中国で森林認証を普及させることは難しいだろう。

一方、林産物の85.4%と占めている国内市場で認証製品が要求されることになれば、森林認証を広めていくことができるだろう。

以上の点を踏まえて、今後の森林認証を広める戦略としては、以下の点が考えられる。

- いままでの、認証取得動機は、ほとんどが海外販売の要求といえ、これからも海外市場の維持が必要である。
- 国内の認証製品市場拡大のため、政府機関による調達などの施策が必要である。
- 国内独自の森林認証制度には、国際相互承認、消費者への認知度アップ、審査体制のレベルアップと信頼度確保などが重要である。

VI おわりに

今回の調査では、認証成功例のみについて聞き取り調査を行った、今後、失敗例をも調査していくことが必要と考えている。また、これから、FSCとPEFCはどうなっていくか、CFCCはどのようなスタンスをとって行くかについても注目していくことが重要である。

謝辞

本研究を進めるにあたり、浙江省のFSC森林認証を取得した森林経営企業に多大なご協力をいただいた。また、各専門家、研究者には、お忙しい中、質問に回答していただいた。この場を借りて、感謝の意を表したい。

引用文献

- (1) 内藤大輔 (2010) マレーシアにおける森林認証の導入過程と先住民への対応、(内藤・生方・市川、熱帯アジアの人と森林管理制度, 人文書院, 京都)
- (2) Global FSC certificates: type and distribution (2010), <http://www.fsc.org/history.html>, 2010年6月18日取得
- (3) 立花 敏 (2009) 近年における森林認証制度の動向、山林 1499, 60-67

表 1. 森林経営企業の認証取得経緯

企業名	A	B	C
認証動機	木材加工企業の要求	木材加工企業の要求	森林経営の向上
期待した効果	社会、経済利益の向上	経済利益、持続的な森林経営	持続的な森林経営、経済利益
政府からの補助金	森林認証普及項目で250万円	なし	なし
審査際に指摘事項	安全施設、水土流失の監視測定	生物多様性	生物多様性、ゴミ処理

注：聞き取り調査より

表 2. 木材加工企業の取得認証経緯

企業名	D	E
認証動機	海外販売先からの要求	海外販売先からの要求
期待した効果	経済効益、竹製品の認知度の向上	経済効益
政府からの補助金	なし	中小企業援助補助金で認証費用の50%
審査際に指摘事項	安全施設、ゴミ処理	水資源の保護、事故の処理手順がない

注：聞き取り調査より

表 3. 森林認証に対する評価

企業名	A	B	C	D	E
認証面積拡大する	○	○	×	×	×
認証費用高い	×	×	×	○	×
認証標準厳しい	×	×	×	○	×
認証効果を得た	○	-	-	○	○
認証を持続意識	○	○	○	○	○
総合評価	良い	-	-	良い	良い

注：聞き取り調査より。

○は、「その項目に賛成」を示す。×は、「その項目に賛成しない」、-は、「まだ何も言えない」。

表 4. 国内独自の認証体系に対する意見

企業名	A	B	C	D	E
基準、指標等の制定					
該体系本部の財政基盤確立					
国際相互承認	○	○		○	○
認証森林の拡大と認証材の安定供給					
認定COC企業の拡大と流通体制の確立					
消費者への認知度アップ	○		○	○	
審査体制のレベルアップと信頼度確保		○	○		○

注：聞き取り調査より。

○は、「その意見に賛成」を示す。